

北見地区消防組合

平成 28 年救急統計



平成 28 年 4 月 北見地区消防組合救急ワークステーション

平成 28 年 2 月 留辺蘂支署 高規格救急自動車

目 次

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）	・ ・ ・ P1～2
2、地区別救急隊出動件数	・ ・ ・ P3～4
3、救急搬送の状況（活動時間の推移）	・ ・ ・ P4
4、傷病者年齢区分別搬送人員状況	・ ・ ・ P5～6
5、傷病程度別搬送人員状況	・ ・ ・ P7
6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況	・ ・ ・ P8
7、急病に係る疾病分類項目別重症割合	・ ・ ・ P8
8、管外搬送状況	・ ・ ・ P9
9、病院問合せ回数、収容拒否状況	・ ・ ・ P10
10、心肺停止患者搬送人員、社会復帰状況	・ ・ ・ P11
11、救命救急センター（北見赤十字病院）搬送状況	・ ・ ・ P11
12、特定行為実施状況	・ ・ ・ P12
13、救命講習実施状況	・ ・ ・ P13
14、市民による応急手当実施状況	・ ・ ・ P14
15、口頭指導による応急手当実施不可理由	・ ・ ・ P15
16、脳疾患患者及び心疾患患者搬送状況	・ ・ ・ P16～17
17、ドクターカー出動状況	・ ・ ・ P18

※ 各統計の割合(%)は小数点第2位以下を四捨五入としている

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）

平成 28 年中の救急出動件数は 5,530 件で、前年比 4.4% (234 件) 増加し、搬送人員は 5,045 人で前年比 4.3% (209 人) 増加している。また、平成 24 年からは 5 年連続で 5,000 件を超えている（図 1-1）（表 1-1）（表 1-2）。

図 1-1 救急件数の推移

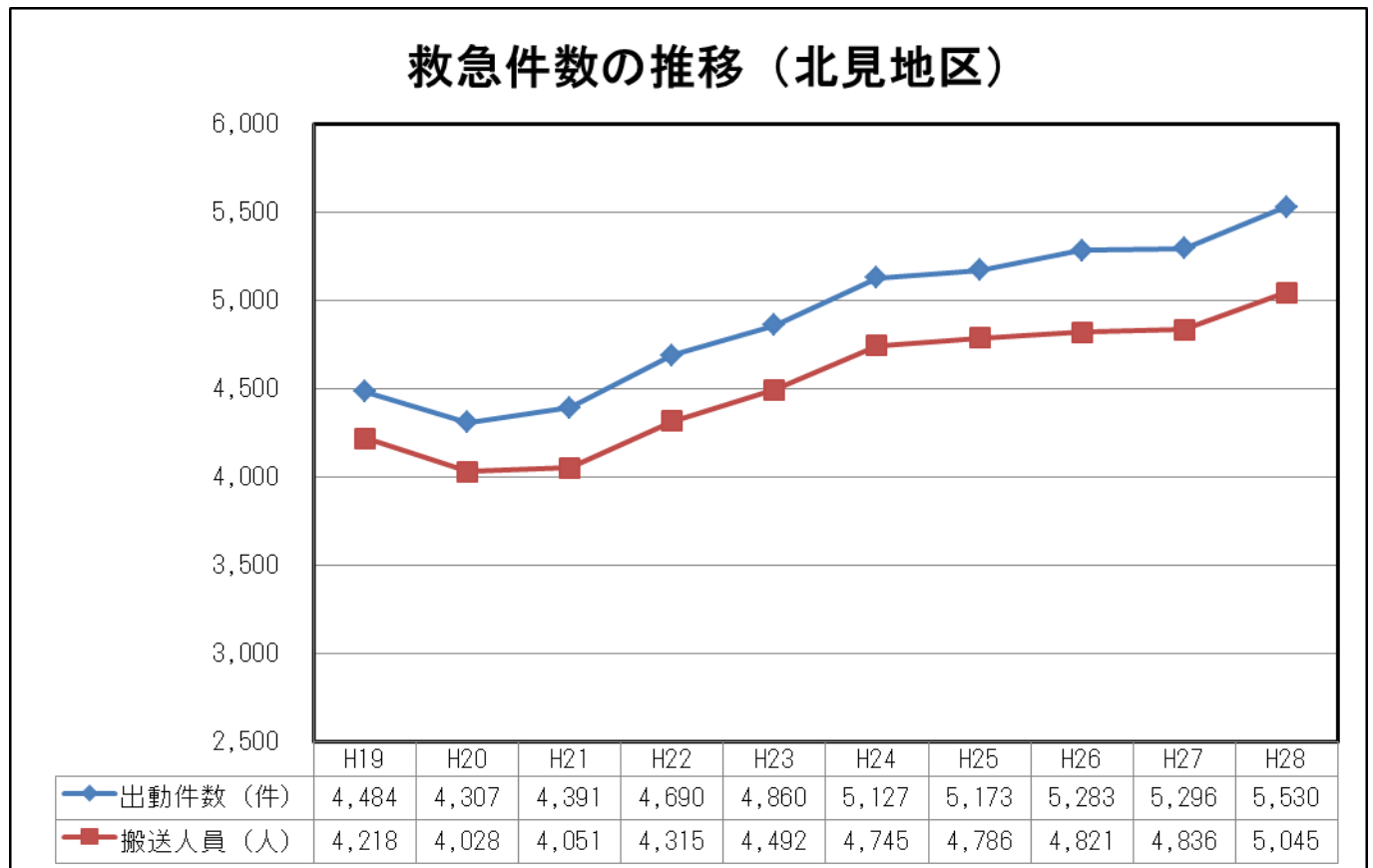


表 1-1 年別出動件数内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	端野	訓子府	支署合計	組合合計	前年比
1991 (H3)	1,002	617	9	0					1,628	65	2	101	168	1,796	
1992 (H4)	1,092	766	15	0					1,873	65	5	111	181	2,054	258 14.4%
1993 (H5)	1,232	691	15	0					1,938	74	0	102	176	2,114	60 2.9%
1994 (H6)	1,285	697	12	0					1,994	89	0	127	216	2,210	96 4.5%
1995 (H7)	1,304	853	20	0					2,177	81	0	135	216	2,393	183 8.3%
1996 (H8)	1,354	881	36	1					2,272	106	126	134	366	2,638	245 10.2%
1997 (H9)	1,438	900	26	3					2,367	88	154	169	411	2,778	140 5.3%
1998 (H10)	1,367	808	19	0					2,194	108	134	167	409	2,603	-175 -6.3%
1999 (H11)	1,466	928	31	0					2,425	101	159	163	423	2,848	245 9.4%
2000 (H12)	1,604	1,032	38	2					2,676	136	161	147	444	3,120	272 9.6%
2001 (H13)	1,564	1,029	34	2					2,629	127	157	190	474	3,103	-17 -0.5%
2002 (H14)	1,613	1,153	36	1					2,803	133	167	180	480	3,283	180 5.8%
2003 (H15)	1,783	1,203	150	0					3,136	156	163	183	502	3,638	355 10.8%
2004 (H16)	1,772	1,280	249	9					3,310	131	192	215	538	3,848	210 5.8%
2005 (H17)	1,643	1,220	310	3					3,176	159	231	209	599	3,775	-73 -1.9%
2006 (H18)	1,711	1,231	279	3	296	220	358		4,098	168		191	359	4,457	682 18.1%
2007 (H19)	1,848	1,202	22	2	470	199	364		4,107	163		214	377	4,484	27 0.6%
2008 (H20)	1,729	1,207	18	0	470	215	350		3,989	145		173	318	4,307	-177 -3.9%
2009 (H21)	1,831	1,243	10	4	438	181	320		4,027	159		205	364	4,391	84 2.0%
2010 (H22)	1,926	1,361	15	4	490	177	353		4,326	168		196	364	4,690	299 6.8%
2011 (H23)	1,919	1,404	16	8	554	185	356		4,442	210		208	418	4,860	170 3.6%
2012 (H24)	2,028	1,548	27	7	607	185	378		4,780	158		189	347	5,127	267 5.5%
2013 (H25)	2,085	1,500	28	8	579	191	419	12	4,822	146		205	351	5,173	46 0.9%
2014 (H26)	2,155	1,562	18	8	596	164	399	13	4,915	152		216	368	5,283	110 2.1%
2015 (H27)	1,818	1,444	654	7	363	197	426	21	4,930	160		206	366	5,296	13 0.2%
2016 (H28)	1,788	1,432	997	9	340	172	379	13	5,130	172		228	400	5,530	234 4.4%

表 1-2 年別搬送人員内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	端野	訓子府	支署合計	合計	前年比
1991 (H3)	949	625	6	0					1,580	66	0	111	177	1,757	
1992 (H4)	1,088	785	16	0					1,889	72	0	119	191	2,080	323 18.4%
1993 (H5)	1,234	716	15	0					1,965	82	0	110	192	2,157	77 3.7%
1994 (H6)	1,256	711	12	0					1,979	101	0	129	230	2,209	52 2.4%
1995 (H7)	1,284	848	23	0					2,155	82	0	147	229	2,384	175 7.9%
1996 (H8)	1,312	902	26	0					2,240	107	124	147	378	2,618	234 9.8%
1997 (H9)	1,366	904	19	0					2,289	81	159	173	413	2,702	84 3.2%
1998 (H10)	1,335	812	17	0					2,164	101	135	174	410	2,574	-128 -4.7%
1999 (H11)	1,427	926	30	0					2,383	107	165	160	432	2,815	241 9.4%
2000 (H12)	1,581	1,009	34	1					2,625	134	161	154	449	3,074	259 9.2%
2001 (H13)	1,559	1,037	38	0					2,634	135	160	188	483	3,117	43 1.4%
2002 (H14)	1,565	1,104	34	0					2,703	127	174	177	478	3,181	64 2.1%
2003 (H15)	1,657	1,166	145	0					2,968	143	157	174	474	3,442	261 8.2%
2004 (H16)	1,689	1,227	251	11					3,178	127	181	219	527	3,705	263 7.6%
2005 (H17)	1,530	1,149	311	3					2,993	146	204	196	546	3,539	-166 -4.5%
2006 (H18)	1,567	1,155	259	2	277	209	333		3,802	157		183	340	4,142	603 17.0%
2007 (H19)	1,692	1,155	9	2	454	201	335		3,848	159		211	370	4,218	76 1.8%
2008 (H20)	1,573	1,155	11	0	435	215	334		3,723	139		166	305	4,028	-190 -4.5%
2009 (H21)	1,666	1,153	3	3	411	168	296		3,700	150		201	351	4,051	23 0.6%
2010 (H22)	1,706	1,281	6	4	467	166	339		3,969	167		179	346	4,315	264 6.5%
2011 (H23)	1,750	1,304	7	8	510	180	332		4,091	202		199	401	4,492	177 4.1%
2012 (H24)	1,861	1,435	18	7	554	178	359		4,412	154		179	333	4,745	253 5.6%
2013 (H25)	1,884	1,438	16	7	530	187	393	7	4,462	140		184	324	4,786	41 0.9%
2014 (H26)	1,921	1,451	7	5	551	156	367	13	4,471	149		201	350	4,821	35 0.7%
2015 (H27)	1,633	1,324	595	6	335	179	406	15	4,493	154		189	343	4,836	15 0.3%
2016 (H28)	1,618	1,335	884	7	313	156	349	10	4,672	161		212	373	5,045	209 4.3%

2、地区別救急隊出動件数

平成 28 年中の地区別救急隊出動件数をみると、北見は前年比 4.0%増の 5,130 件、置戸は前年比 7.5%増の 172 件、訓子府は前年比 10.6%増の 228 件となっている（表 2-1）。自治区別救急隊出動件数では、端野が前年比 6.76%減の 340 件、常呂は前年比 14.5%減の 172 件、留辺蘂は前年比 12.4%減の 379 件となっている（表 2-2）。また事故種別割合は、急病（62.4%）による救急要請が大半を占め、一般負傷（13.4%）、転院搬送（9.4%）、交通（6.5%）となっている（図 2-1）。

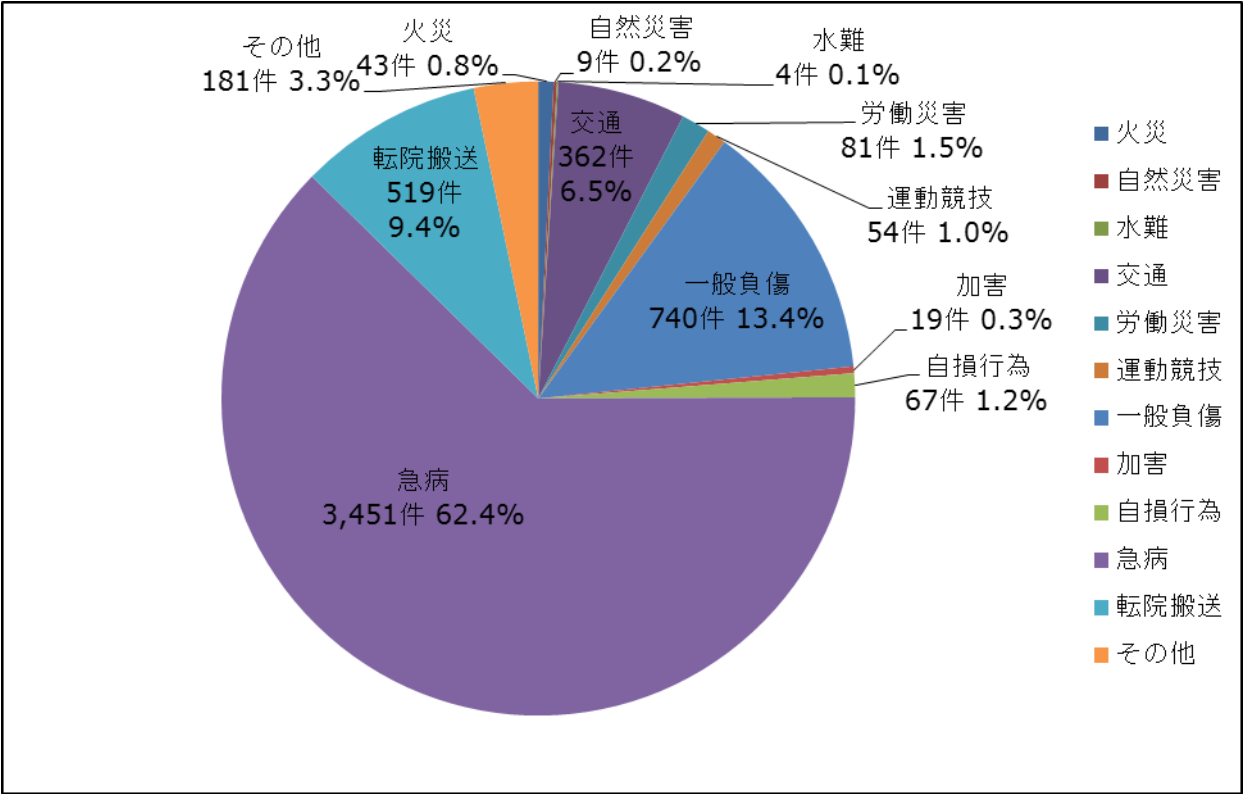
表 2-1 地区別救急隊出動件数

事故種別		火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ	計
地区別		災	然	難	通	害	動	般	害	損	病	院	師	機	の	
合	出動件数	43	9	4	362	81	54	740	19	67	3,451	519	0	1	180	5,530
	増減数	△ 7	7	3	11	27	14	30	1	△ 11	194	△ 54	0	1	18	234
	搬送人員	4	2	2	347	78	52	683	15	42	3,297	518	0	0	5	5,045
	増減数	2	1	1	2	28	14	26	1	△ 17	202	△ 54	0	0	3	209
計北	出動件数	38	9	3	350	63	49	686	18	60	3,222	465	0	1	166	5,130
	増減数	△ 10	7	2	22	17	14	29	1	△ 11	176	△ 59	0	1	11	200
	搬送人員	4	2	1	333	60	48	632	14	37	3,073	464	0	0	4	4,672
	増減数	2	1	0	10	18	15	23	0	△ 17	183	△ 59	0	0	3	179
見置	出動件数	1	0	0	3	8	2	21	1	1	76	51	0	0	8	172
	増減数	0	0	0	△ 8	5	△ 1	3	1	△ 3	7	4	0	0	4	12
	搬送人員	0	0	0	3	8	2	21	1	1	74	51	0	0	0	161
	増減数	0	0	0	△ 11	5	△ 1	3	1	△ 2	8	4	0	0	0	7
戸訓	出動件数	4	0	1	9	10	3	33	0	6	153	3	0	0	6	228
	増減数	3	0	1	△ 3	5	1	△ 2	△ 1	3	11	1	0	0	3	22
	搬送人員	0	0	1	11	10	2	30	0	4	150	3	0	0	1	212
	増減数	0	0	1	3	5	0	0	0	2	11	1	0	0	0	23

表 2-2 自治区別救急隊出動件数

北	出動件数	28	3	2	275	45	36	582	16	49	2,722	338	0	1	142	4,239
	増減数	△ 16	1	2	30	12	10	47	0	△ 8	276	△ 66	0	1	7	296
	搬送人員	4	0	1	262	43	35	531	13	33	2,593	337	0	0	2	3,854
	増減数	2	△ 1	1	30	13	10	33	△ 1	△ 13	274	△ 67	0	0	1	282
見端	出動件数	4	1	1	42	6	5	36	0	3	156	81	0	0	5	340
	増減数	3	1	1	△ 9	0	1	△ 13	0	△ 2	△ 31	30	0	0	△ 4	△ 23
	搬送人員	0	1	0	36	6	6	35	0	0	147	81	0	0	1	313
	増減数	0	1	0	△ 19	1	2	△ 7	0	△ 4	△ 27	30	0	0	1	△ 22
野常	出動件数	4	3	0	11	6	5	15	0	5	98	18	0	0	7	172
	増減数	4	3	0	△ 2	4	4	△ 11	0	2	△ 21	△ 6	0	0	△ 2	△ 25
	搬送人員	0	1	0	9	6	5	15	0	4	97	18	0	0	1	156
	増減数	0	1	0	△ 2	4	4	△ 9	0	2	△ 19	△ 5	0	0	1	△ 23
呂留	出動件数	2	2	0	22	6	3	53	2	3	246	28	0	0	12	379
	増減数	△ 1	2	0	3	1	△ 1	6	1	△ 3	△ 48	△ 17	0	0	10	△ 47
	搬送人員	0	0	0	26	5	3	51	1	0	235	28	0	0	0	349
	増減数	0	0	0	1	0	0	6	1	△ 2	△ 46	△ 17	0	0	0	△ 57

図 2-1 事故種別出動割合



3、救急搬送の状況（活動時間の推移）

平成 28 年中の現場到着までの平均時間は 6.8 分で、過去 10 年間で大きな変化は見られないが、病院収容までの平均時間は 31 分と 10 年間微増の傾向にある（図 3-1、表 3-1）。

図 3-1 活動時間の推移

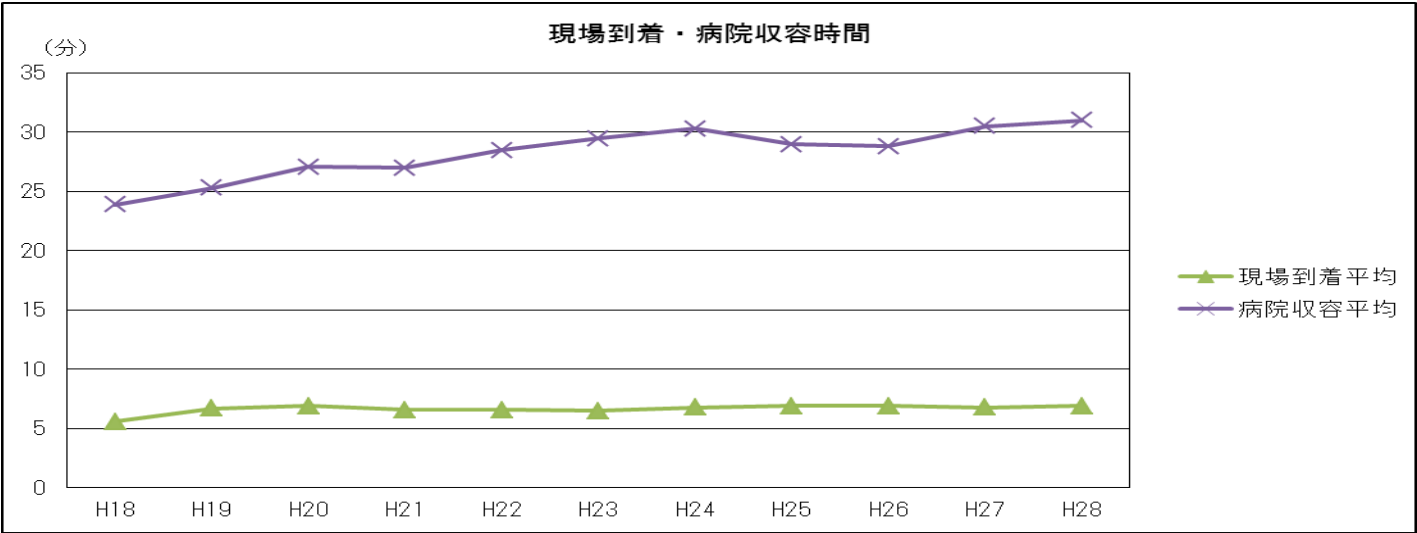


表 3-1 過去 5 年間の活動時間の推移(分)

項目 \ 年	H24	H25	H26	H27	H28
現場到着平均時間（分）	6.8分	6.9分	6.9分	6.8分	6.8分
病院収容平均時間（分）	30.3分	29.0分	28.8分	30.5分	31分

4、傷病者年齢区分別搬送人員状況

平成 28 年中の搬送人員 5,045 人に対し年齢区分における高齢者（65 歳以上）の搬送人員は 3,094 人となっており全体の 61.3%を占めている（表 4-1）（図 4-1）。

高齢化率の上昇と同様に高齢者の搬送人員は年々増加傾向にあり（表 4-2）（図 4-2）（図 4-3）、2 回以上搬送されている高齢者の数は 354 人で（図 4-3）延べ出動件数は 798 件となっている。

表 4-1 年齢区分別搬送種別状況

事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	医師搬送	資機材等輸送	その他	計
年齢区分	災	害	難	通	害	技	傷	害	為	病	送	送	送	他	
新生児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	22	0	0	0	25
乳幼児	0	0	0	9	0	0	41	0	0	146	11	0	0	0	207
少年	0	0	0	41	0	28	28	1		77	7	0	0	0	182
成人	3	1	1	202	64	21	151	11	33	924	123	0	0	3	1,537
高齢者	1	1	1	95	14	3	463	3	9	2,147	355	0	0	2	3,094
計	4	2	2	347	78	52	683	15	42	3,297	518	0	0	5	5,045

【年齢分類】
新生児＝生後28日未満
乳幼児＝28日以上7歳未満
少年＝7歳以上18歳未満
成人＝18歳以上65歳未満
高齢者＝65歳以上

図 4-1 傷病者年齢区分別搬送人員状況

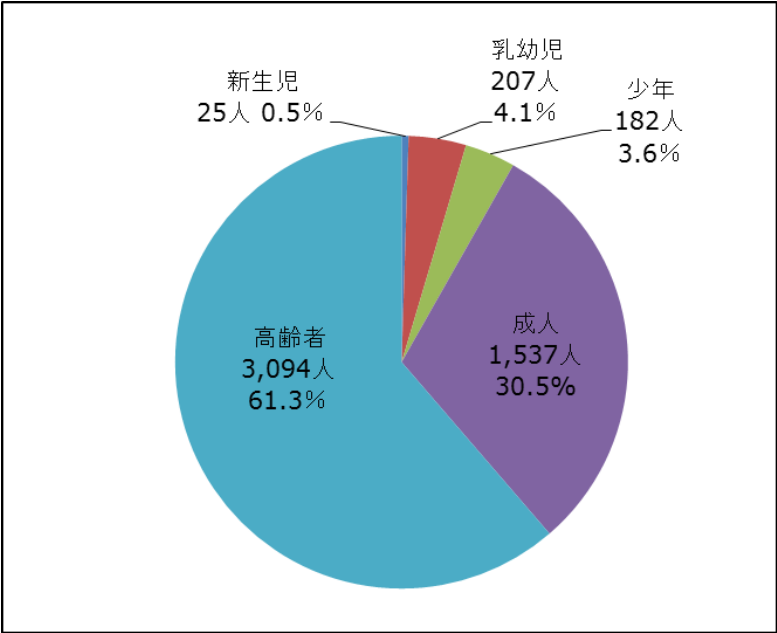
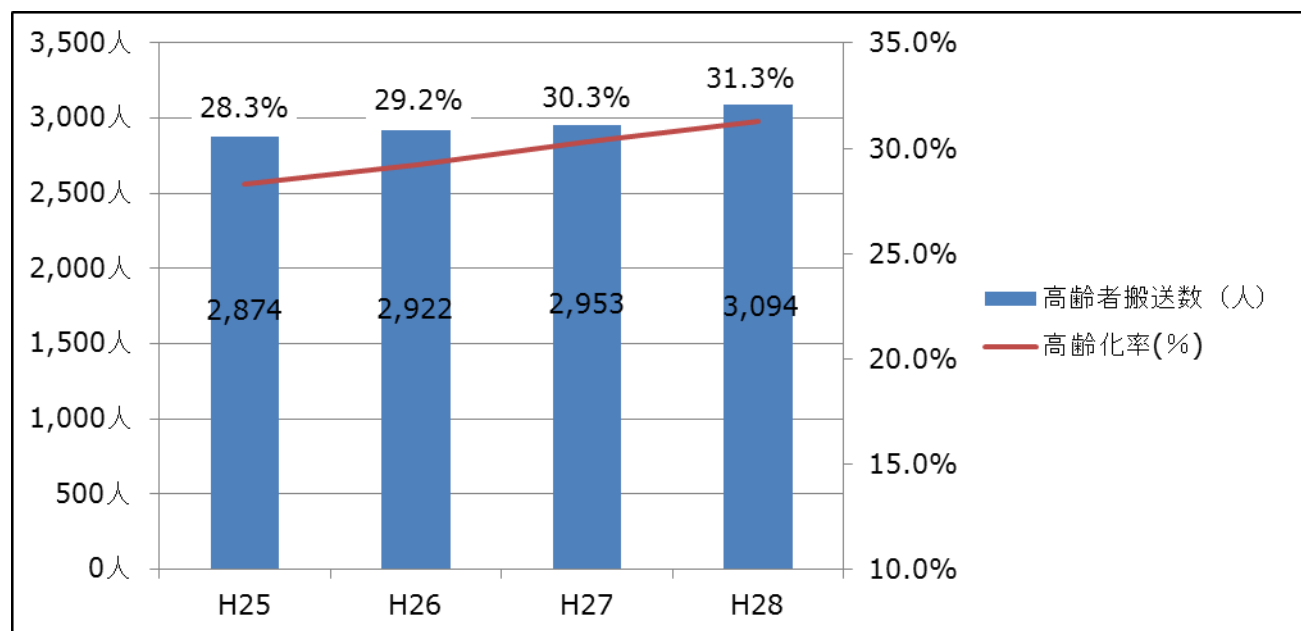


表 4-2 高齢者搬送人員状況

項目	年	H23		H24		H25		H26		H27		H28	
		搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数
急病		1,790	123	1,928	138	1,971	43	2,032	61	2,007	△ 25	2,147	140
一般		344	32	409	74	386	△ 23	427	41	460	33	463	3
交通		86	△ 4	90	4	103	13	79	△ 24	84	5	95	11
その他		374	41	335	△ 48	414	79	384	△ 30	402	18	389	△ 13
計		2,594	192	2,762	168	2,874	112	2,922	48	2,953	31	3,094	141
うち老健施設から		369		351	△ 18	352	1	413	61	400	△ 13	421	21

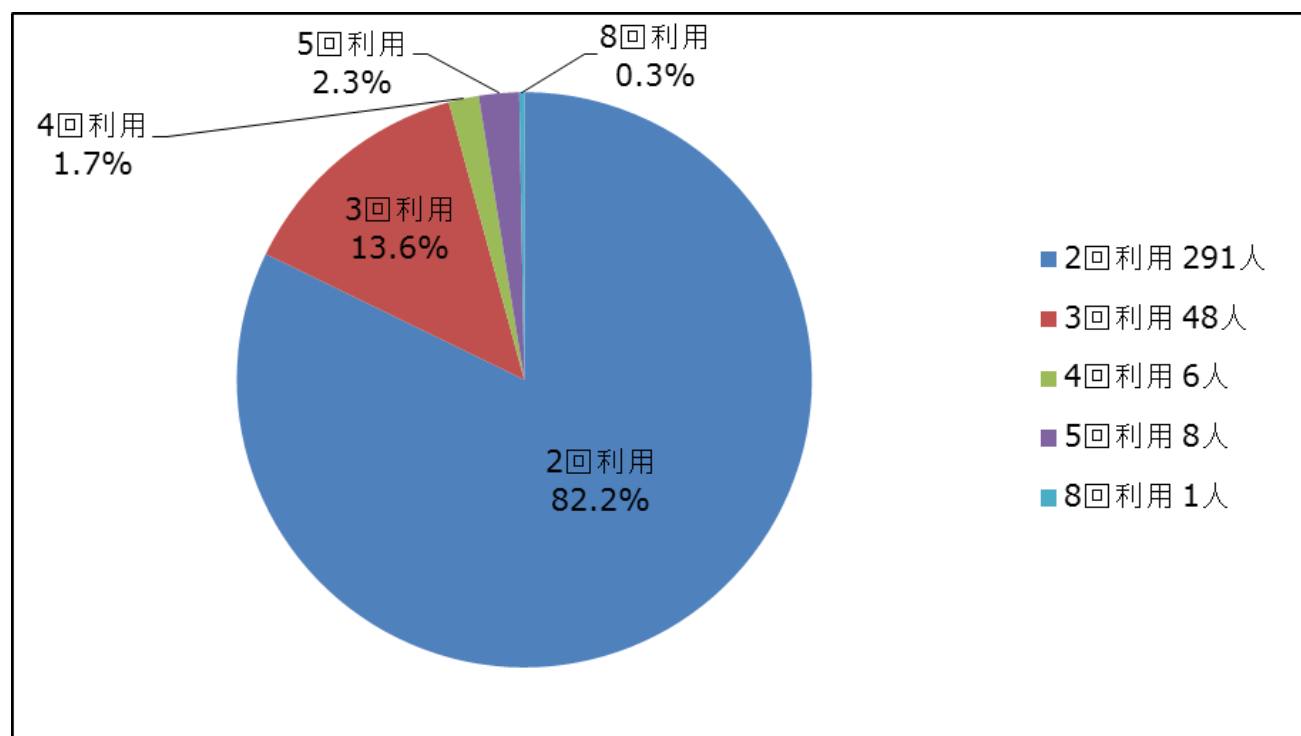
図 4-2 高齢者救急搬送の推移



※高齢者搬送者数は、延べ人数

※高齢化率は各年9月末の統計（北見市、置戸町、訓子府町から抜粋）

図 4-3 高齢者の複数回利用数



5、傷病程度別搬送人員状況

平成28年中の搬送人員5,045人のうち、死亡、重症、中等症の傷病者の割合を合計すると56.1%、入院加療を必要としない軽症の傷病者の割合は43.9%となっている（図5-1、表5-1）。

図 5-1 傷病程度別内訳

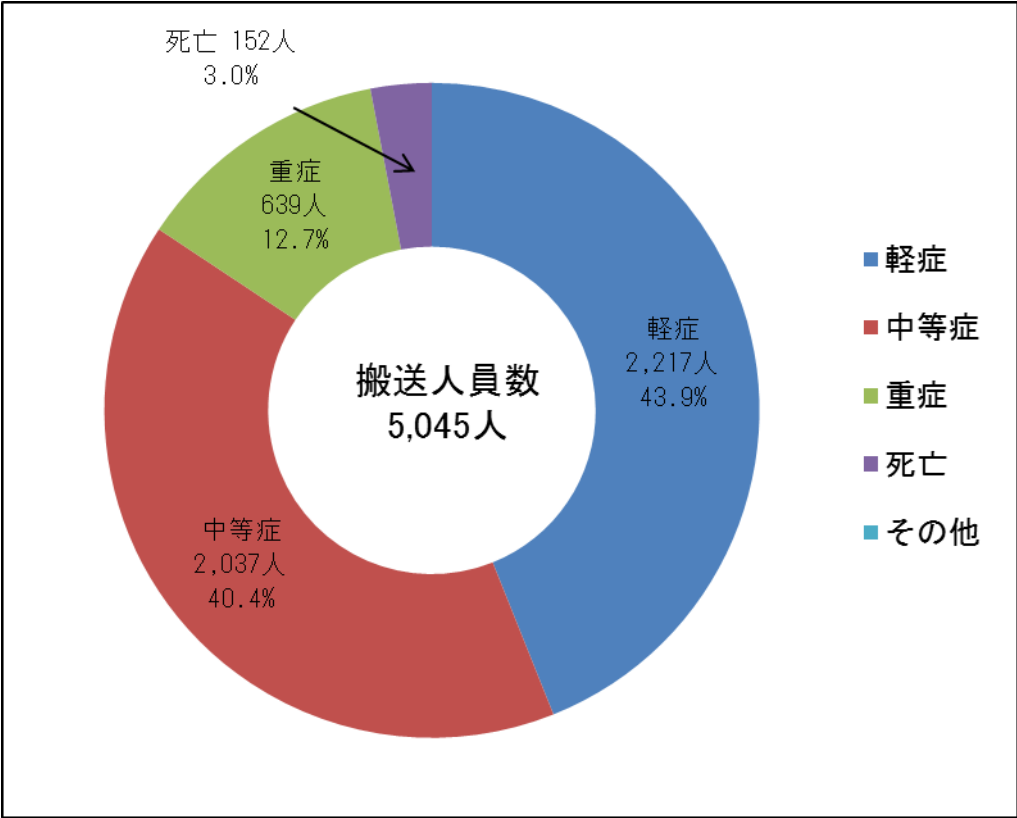


表 5-1 傷病程度分類

事故種別 程度	火	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 輸 送	そ の 他	計	割	
	災	害	難	通	害	動	傷	害	為	病	送	送	送	他		合	
死	亡	0	0	1	2	0	0	12	0	10	120	5	0	0	2	152	3.0%
重	症	0	0	0	11	12	1	57	1	5	427	125	0	0	0	639	12.7%
中	等 症	1	1	1	78	38	13	290	3	13	1,289	307	0	0	3	2,037	40.4%
軽	症	3	1	0	256	28	38	324	11	14	1,461	81	0	0	0	2,217	43.9%
そ の 他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計		4	2	2	347	78	52	683	15	42	3,297	518	0	0	5	5,045	100.0%

※死亡とは、初診時において死亡が確認されたもの

※重症とは、傷病程度が3週間の入院加療を必要とするもの

※中等症とは、傷病程度が重傷又は軽症以外のもの

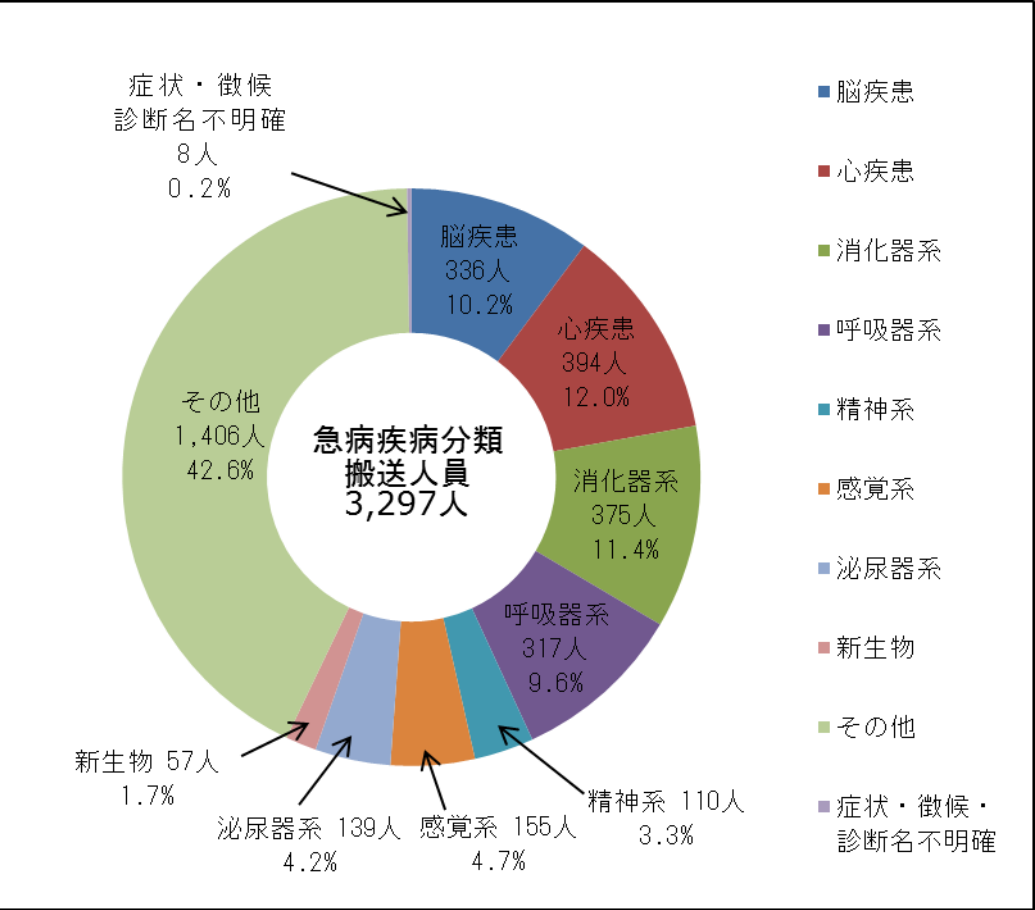
※軽症とは、傷病程度が入院加療を必要としないもの

※その他とは、医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、並びにその他の場所に搬送したもの

6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況

平成 28 年中の急病の搬送人員内訳を世界保健機構（WHO）の国際疾病分類の項目別でみると、脳疾患 336 人（10.2%）、心疾患 394 人（12.0%）、消化器系 375 人（11.4%）、呼吸器系 317 人（9.6%）となっている（図 6-1）。

図 6-1 急病患者疾病内訳



7、急病に係る疾病分類項目別重症割合

平成 28 年中の急病の疾病分類項目別に重症以上の割合をみると、心疾患（35.0%）、脳疾患（32.1%）、新生物（26.3%）の順となっている（表 7-1）。

表 7-1 疾病分類項目別重症割合

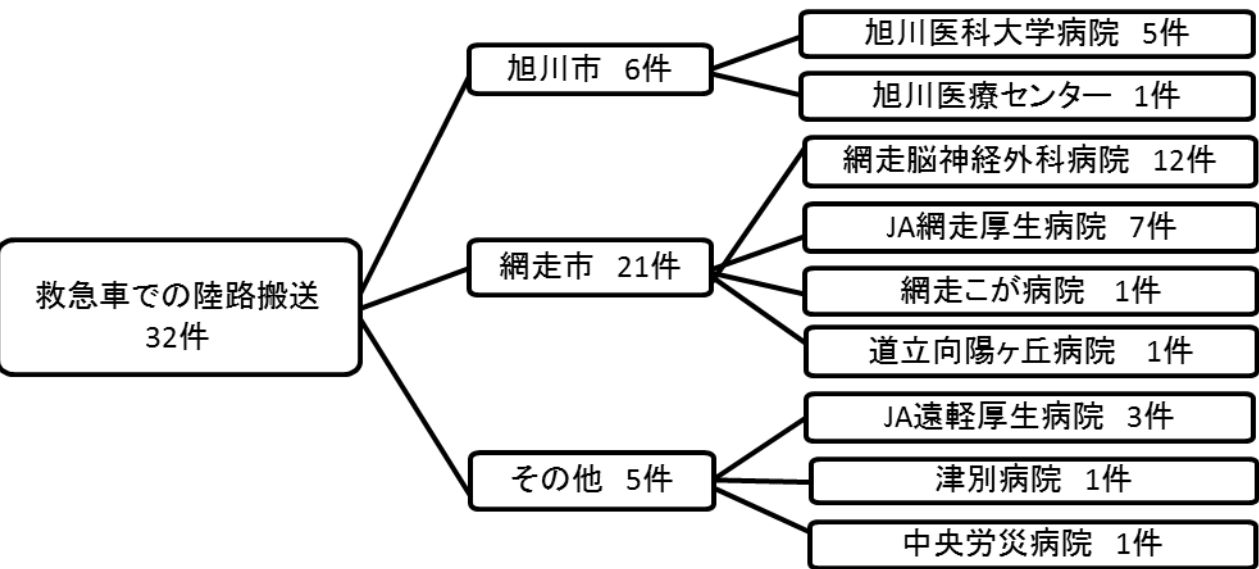
急病患者疾患内訳											
種別	脳疾患	心疾患	消化器系	呼吸器系	精神系	感覚系	泌尿器系	新生物	その他	症状・徴候 診断名 不明確	計
項目											
搬送人員	336	394	375	317	110	155	139	57	1,406	8	3,297
重症以上	108	138	77	73	9	3	21	15	101	2	547
割合	32.1%	35.0%	20.5%	23.0%	8.2%	1.9%	15.1%	26.3%	7.2%	25.0%	16.6%

8、管外搬送状況

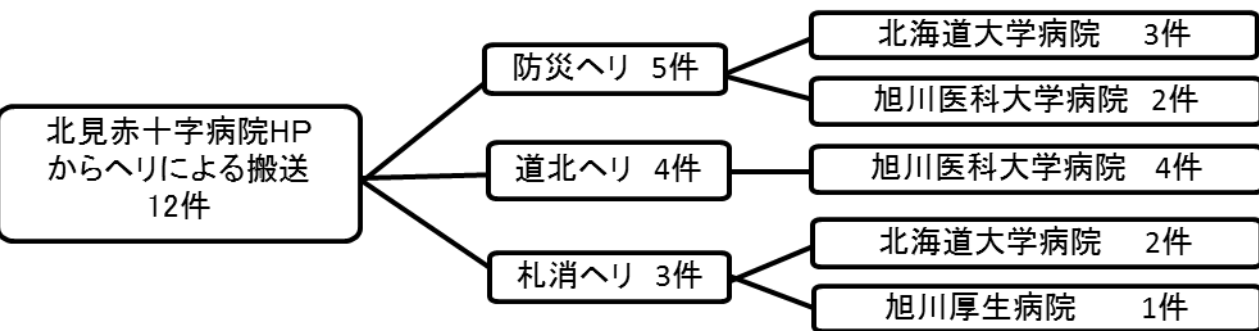
救急車等による陸路での管外搬送は、前年よりも 25 件減少している。地域別では、札幌市への搬送が 6 件減少、旭川市への搬送が 3 件減少、網走市への搬送が 12 件減少している。

ヘリコプター等による航空機搬送はなく（前年比 2 件減）、北見赤十字病院 HP からの搬送は、前年よりも 2 件減少している（図 8-1）。

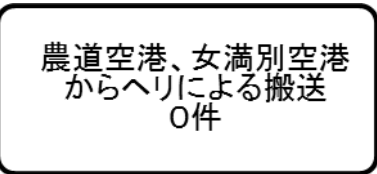
図 8-1 管外搬送状況内訳



※H27 年管外への陸路搬送:57 件



※H27 年北見赤十字病院 HP からのヘリ搬送:14 件



9、病院問合せ回数、収容拒否状況

平成 28 年中における病院問合せ回数で、1 回で決定したものは 4,159 件（82.4%）、問い合わせ回数 2 回以上で最多の 6 回を合わせると、886 件（17.6%）となっている（図 9-1）。

また、受入拒否件数は 886 件で受入の拒否理由として処置困難 463 件（52.3%）、ベッド満床 203 件（22.9%）となっている。特に軽症傷病者の収容拒否 491 件（55.4%）が多くみられた（表 9-1）。

図 9-1 病院問合せ回数

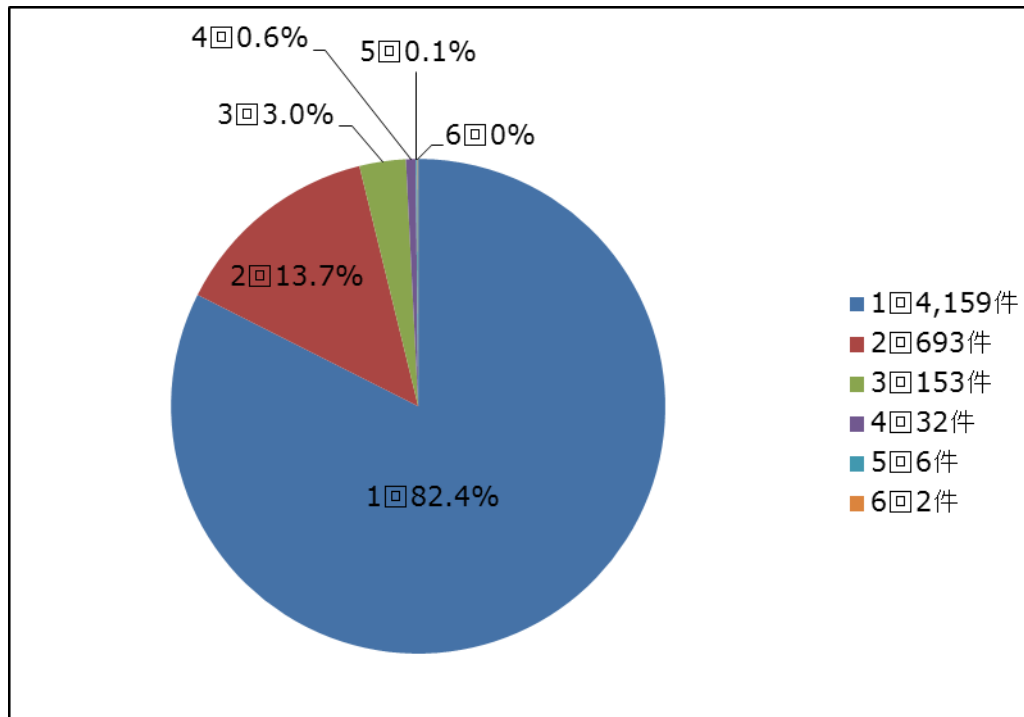


表 9-1 救急搬送における医療機関の収容拒否状況

区分 名称		手術中・ 患者対応 中	ベッド満床	処置困難	専門外	医師不在	その他	合計
全体	件数	62	203	463	54	30	74	886
	割合	7.0%	22.9%	52.3%	6.1%	3.4%	8.4%	100.0%
重症以上	件数	10	15	39	3	2	13	82
	割合	12.2%	18.3%	47.6%	3.7%	2.4%	15.9%	9.3%
中等症	件数	20	98	147	15	6	27	313
	割合	6.4%	31.3%	47.0%	4.8%	1.9%	8.6%	35.3%
軽症	件数	32	90	277	36	22	34	491
	割合	6.5%	18.3%	56.4%	7.3%	4.5%	6.9%	55.4%

10、心肺停止患者搬送人員、社会復帰状況

平成 28 年中の心肺停止患者搬送数は 169 人と前年よりも 1 人増加した（図 10－1）。社会復帰者数は 5 人であった（表 10－1）。

また社会復帰者 5 人中、市民により応急手当が実施されていたものが 1 件あったが、市民により除細動が実施された事案はなかった。

図 10-1

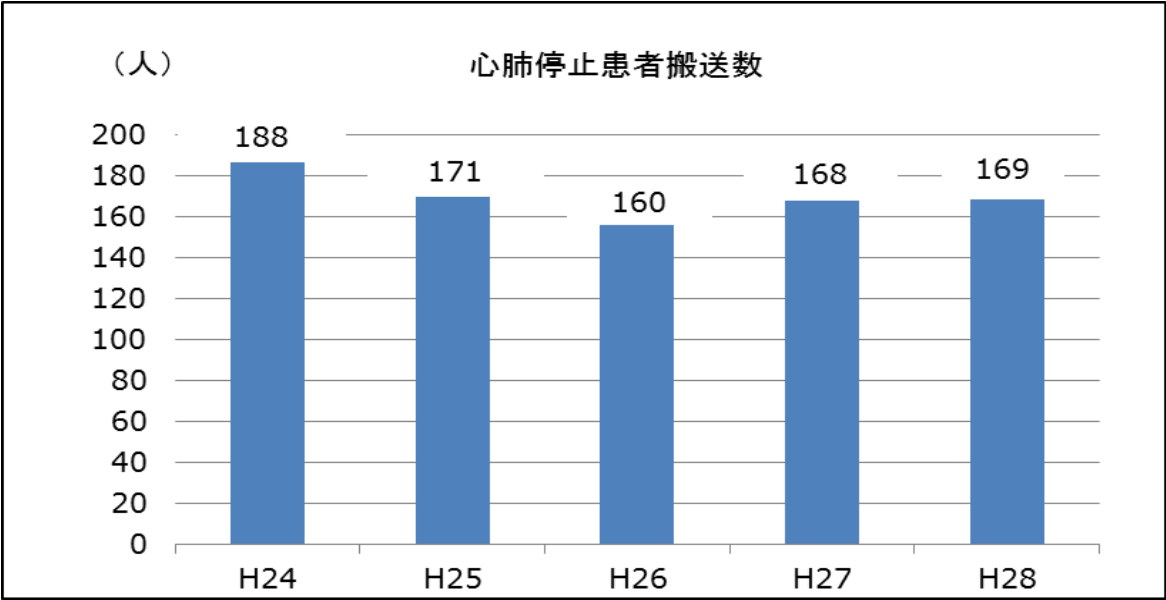


表 10-1

項目 \ 年	H24	H25	H26	H27	H28
心肺停止患者搬送数	188	171	160	168	169
社会復帰者数	6	3	5	11	5
社会復帰率	3.2%	1.8%	3.1%	6.5%	3.0%

※社会復帰者とは、脳機能カテゴリー（CPC）2 以下かつ全身機能カテゴリー（OPC）2 以下のもの

11、救命救急センター（北見赤十字病院）搬送状況

平成 28 年中の救急救命センターへの搬送人員は前年と比べ 362 人増加している。

要因の一つとして、平成 28 年 7 月に市内二次医療機関の一つが、道の救急告示病院指定を返上したことが考えられる。

また、CPA（心肺停止患者）の搬送は 169 人中 125 人と 74%が救急救命センターへ搬送されている（表 11－1）。

表 11-1

事故種別		急病	一般	交通	労災	自損	加害	運動	転院	その他 (火災等)	計
北見地区	搬送人員	3,297	683	347	78	42	15	52	518	13	5,045
	CPA搬送人員	135	15	1	0	12	0	0	3	3	169
救命救急センター (北見赤十字病院)	搬送人員	1,726	400	175	56	36	9	27	415	10	2,854
	搬送割合	52.4%	58.6%	50.4%	71.8%	85.7%	60.0%	51.9%	80.1%	76.9%	56.6%
	CPA搬送人員	96	13	1	0	10	0	0	2	3	125

12、特定行為実施状況

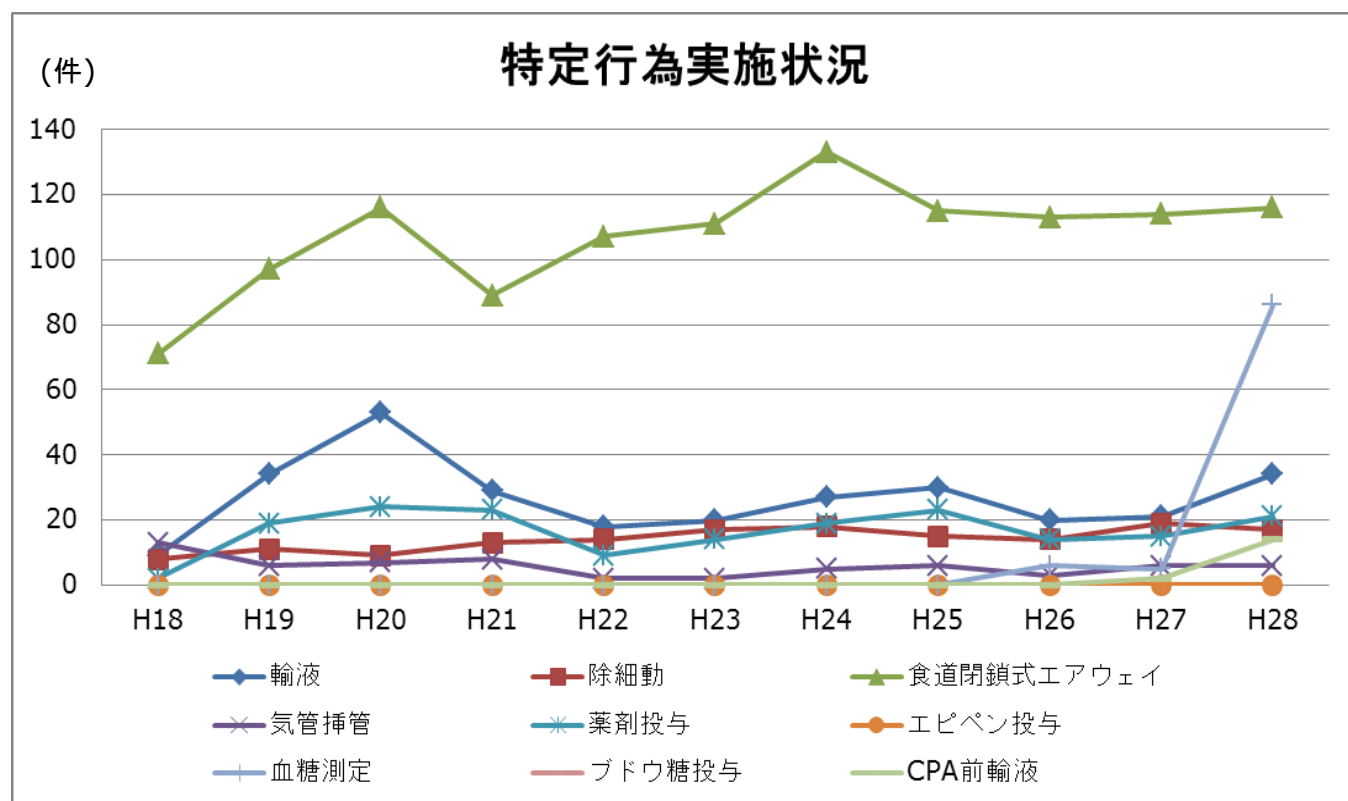
平成 28 年中の特定行為実施状況では、血糖測定の積極的な実施が目立った。平成 26 年 8 月から、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液（CPA 前輸液）、重度傷病者に対する血糖測定及び低血糖症例へのブドウ糖溶液の投与が運用開始され、処置拡大 2 行為の実施可能な救命士数増加や運用が定着してきたことが要因として考えられる。平成 28 年はブドウ糖投与 7 件、CPA 前輸液 14 件を実施した（表 12-1）（図 12-1）。

表 12-1

特定行為実施状況（過去6年間）

項目 年	輸液 (うちCPA前)	除細動	食道閉鎖式 エアウェイ	気管挿管	薬剤投与	エピペン 投与	血糖測定	ブドウ糖 投与
H23	20	17	111	2	14	0		
H24	27	18	133	5	19	0		
H25	30	15	115	6	23	0		
H26	20 (0)	14	113	3	14	0	6	0
H27	23 (2)	19	114	6	15	0	5	1
H28	48 (14)	17	116	6	21	0	86	7

図 12-1



13、救命講習実施状況

平成 26 年からの実施状況は、普通救命講習及び一般講習等合わせて 556 回の実施、延べ 11,166 人の受講となっている（表 13-1）。

また、平成 26 年から試験的に導入した短時間講習（約 1 時間）は、平成 27 年より本格的に運用が開始となり、本年の受講者数は 1,333 人で前年より 272 人増加した。

表 13-1

応急手当普及啓発講習会実施状況（過去3年間）

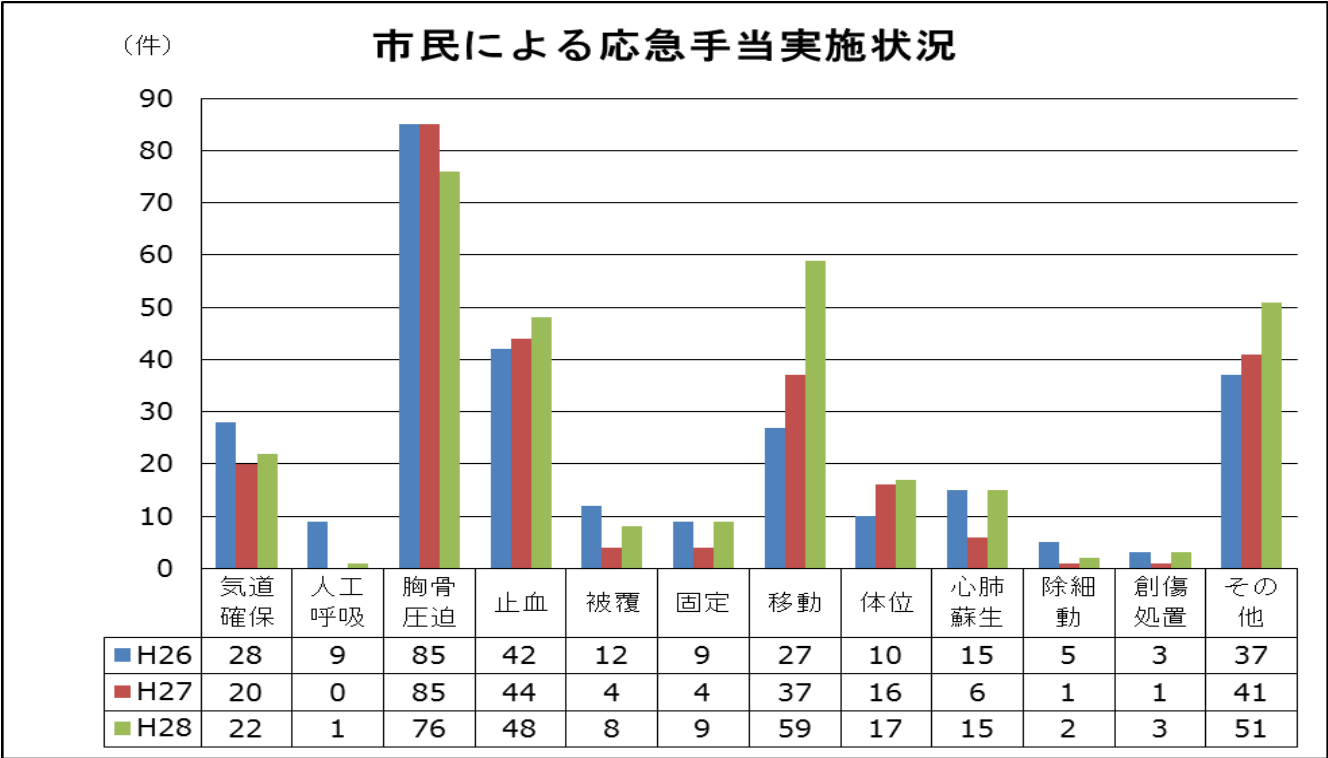
年	講習(種類)			回数(回)	人数(人)
平成26年	普通救命講習		普通Ⅰ	82	1,476
			普通Ⅲ(小児)	1	7
	一般講習	救命入門 コース	学校関係	4	78
			職域関係	21	439
			一 般	4	60
		応急手当 講習	学校関係	15	281
			職域関係	16	309
			一 般	35	861
		短時間 講習	学校関係	2	45
			職域関係	3	44
			一 般	0	0
	普及員講習			3	61
	指導員講習			0	0
患者等搬送事業者			0	0	
計			186	3,661	
平成27年	普通救命講習		普通Ⅰ	93	1,698
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	救命入門 コース	学校関係	1	25
			職域関係	8	134
			一 般	3	38
		応急手当 講習	学校関係	3	34
			職域関係	24	418
			一 般	25	441
		短時間 講習	学校関係	19	441
			職域関係	14	262
			一 般	10	358
	普及員講習			6	80
	指導員講習			0	0
患者等搬送事業者			0	0	
計			206	3,929	
平成28年	普通救命講習		普通Ⅰ	78	1,514
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	救命入門 コース	学校関係	2	29
			職域関係	3	45
			一 般	2	31
		応急手当 講習	学校関係	3	67
			職域関係	13	317
			一 般	8	188
		短時間 講習	学校関係	17	512
			職域関係	27	630
			一 般	7	191
	上級救命講習			1	30
	普及員講習			3	22
指導員講習			0	0	
患者等搬送事業者			0	0	
計			164	3,576	
	合計			556	11,166

14、市民による応急手当実施状況

過去 3 年において実施された応急手当を見ると、胸骨圧迫が最も多く実施されている。平成 28 年では胸骨圧迫を除く全ての応急手当において前年を上回る実施件数となっている（図 14-1）。

口頭指導と応急手当実施件数には、大きな開きが見られたが、口頭指導実施下における応急手当の実施状況では、胸骨圧迫の実施件数が 57 件と最も多かった（図 14-2）。

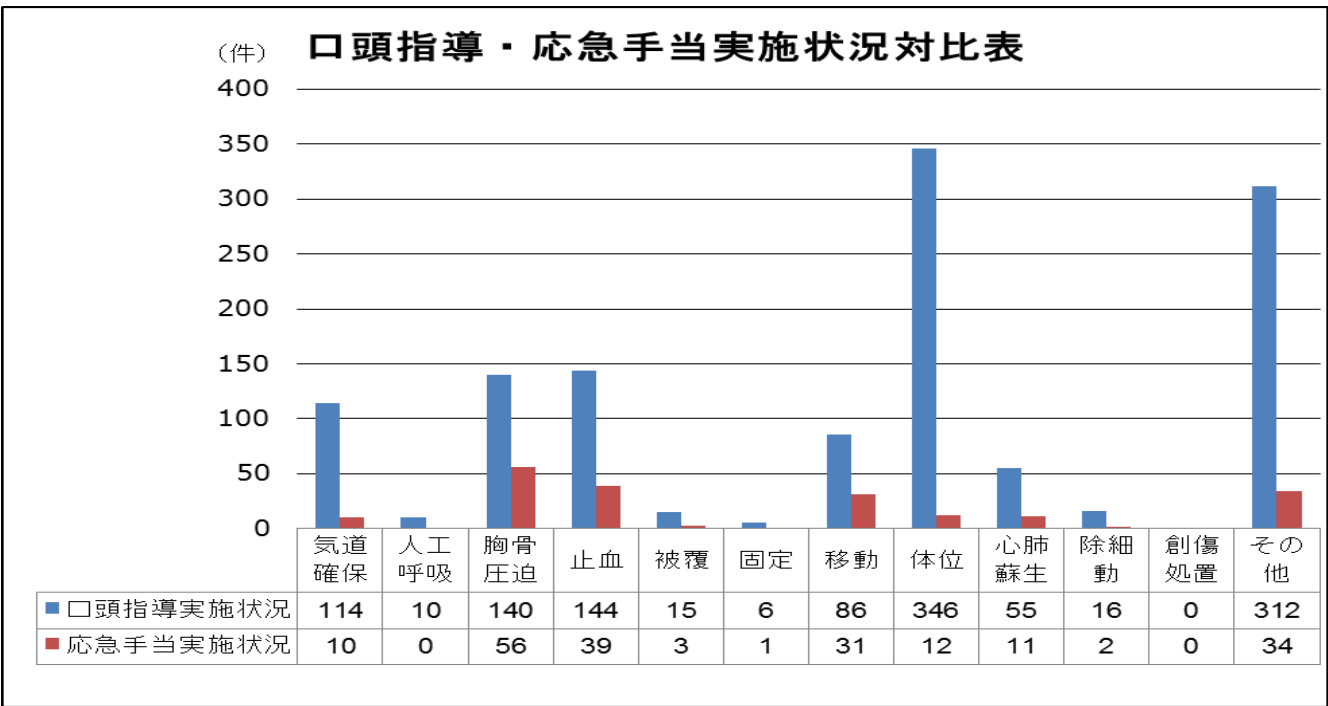
図 14-1



※心肺蘇生は、人工呼吸と胸骨圧迫の両方を実施したもの

※その他は、上記以外の冷却などの処置

図 14-2

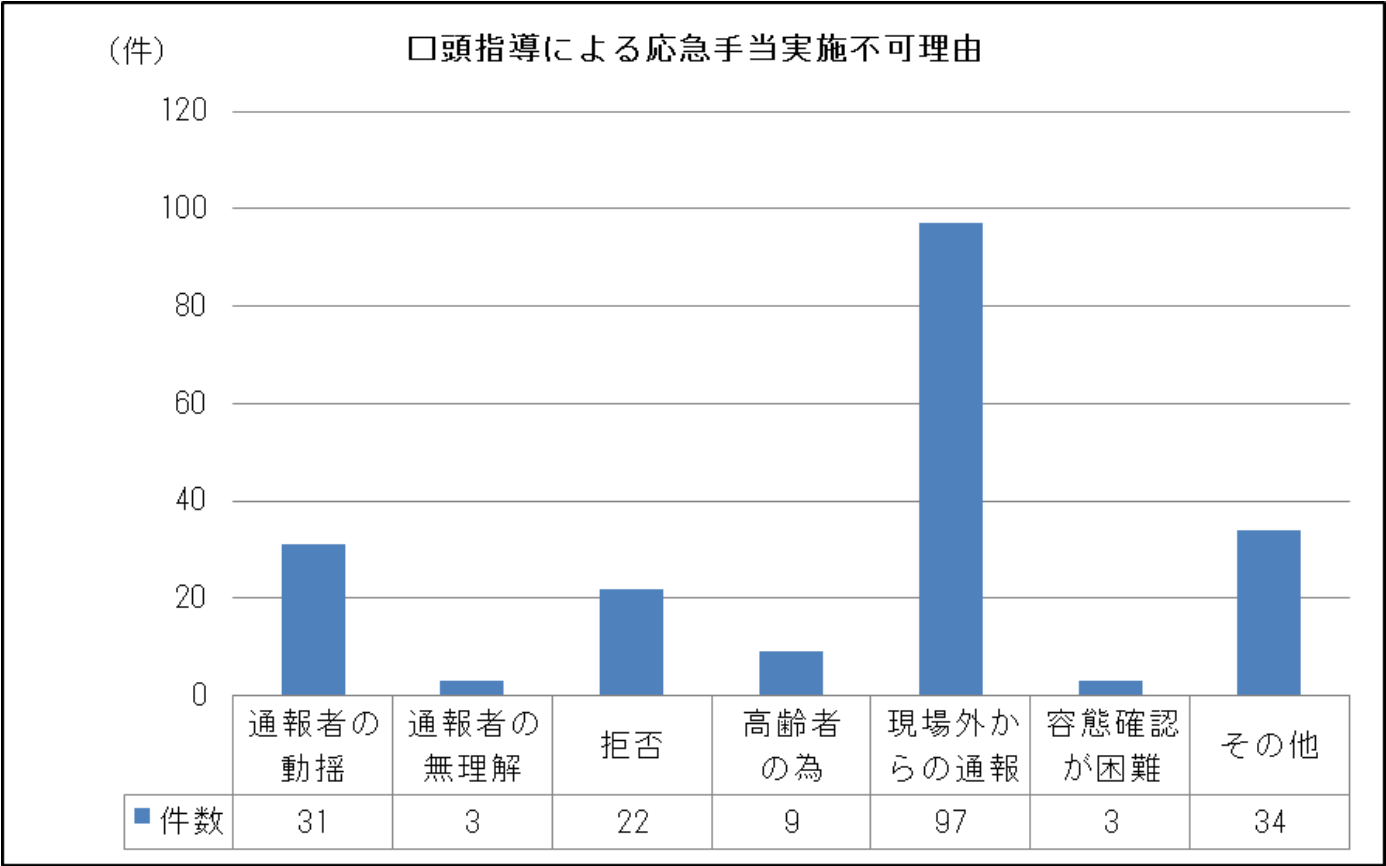


15、口頭指導による応急手当実施不可理由

口頭指導をしたが応急手当を実施できなかった理由として、現場外からの通報の 97 件が最も多く、その他 34 件、通報者の動揺 31 件と続いている（図 15－1）。

また、その他の内訳としては症状回復、死亡徴候が見られる、電話を切られたなどがある。

図 15-1



※すべての救急事案で聴取することは不可能なため、聴取可能だった事案のみ統計に反映している

16、脳疾患患者及び心疾患患者搬送状況

平成 28 年中の急病件数に占める脳疾患の割合は 3,297 件中 336 件で 10.2%、心疾患の占める割合は 394 件で 12.0%であった（図 16-1）。

脳疾患の傷病程度重症以上の患者は 336 件中 108 件で 32.2%、心疾患の傷病程度重症以上の患者は 394 件中 138 件で 35.0%あった（図 16-2）。

図 16-1

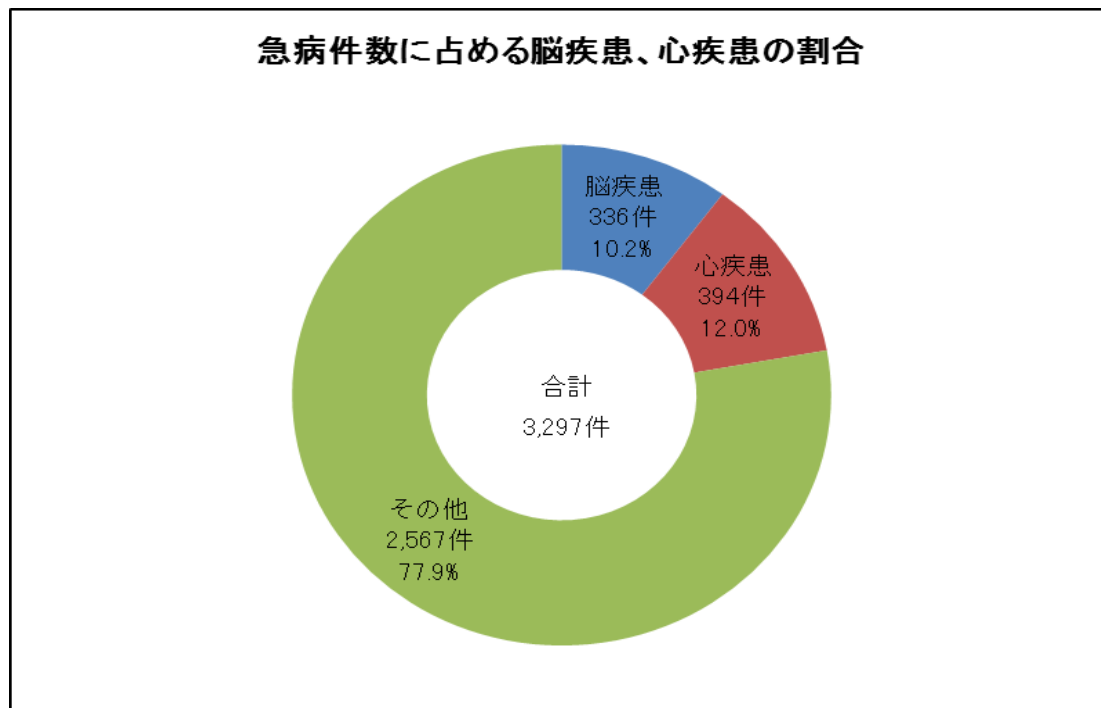
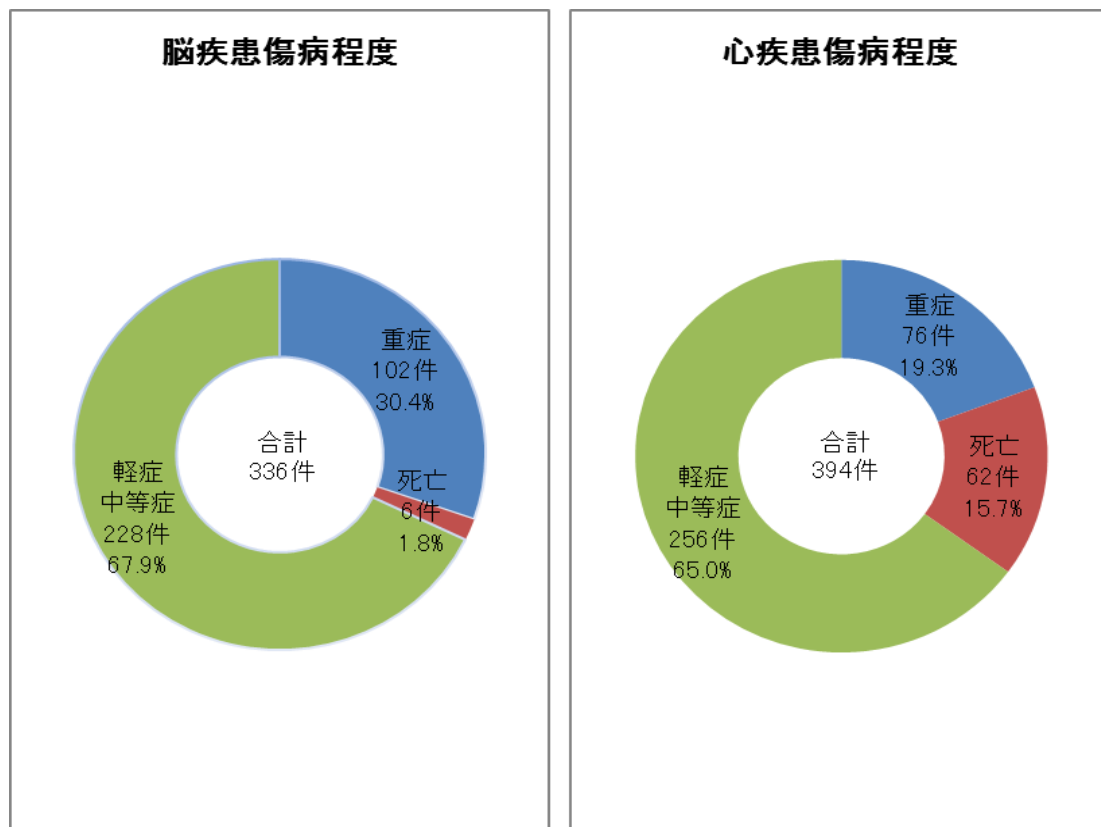
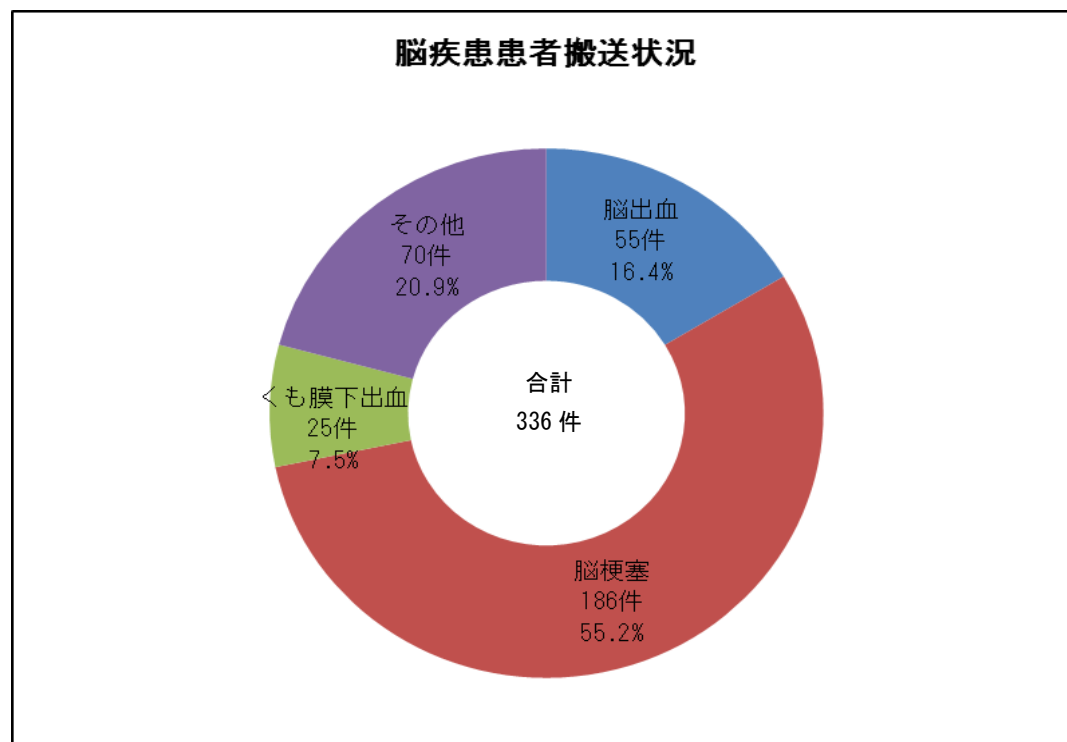


図 16-2



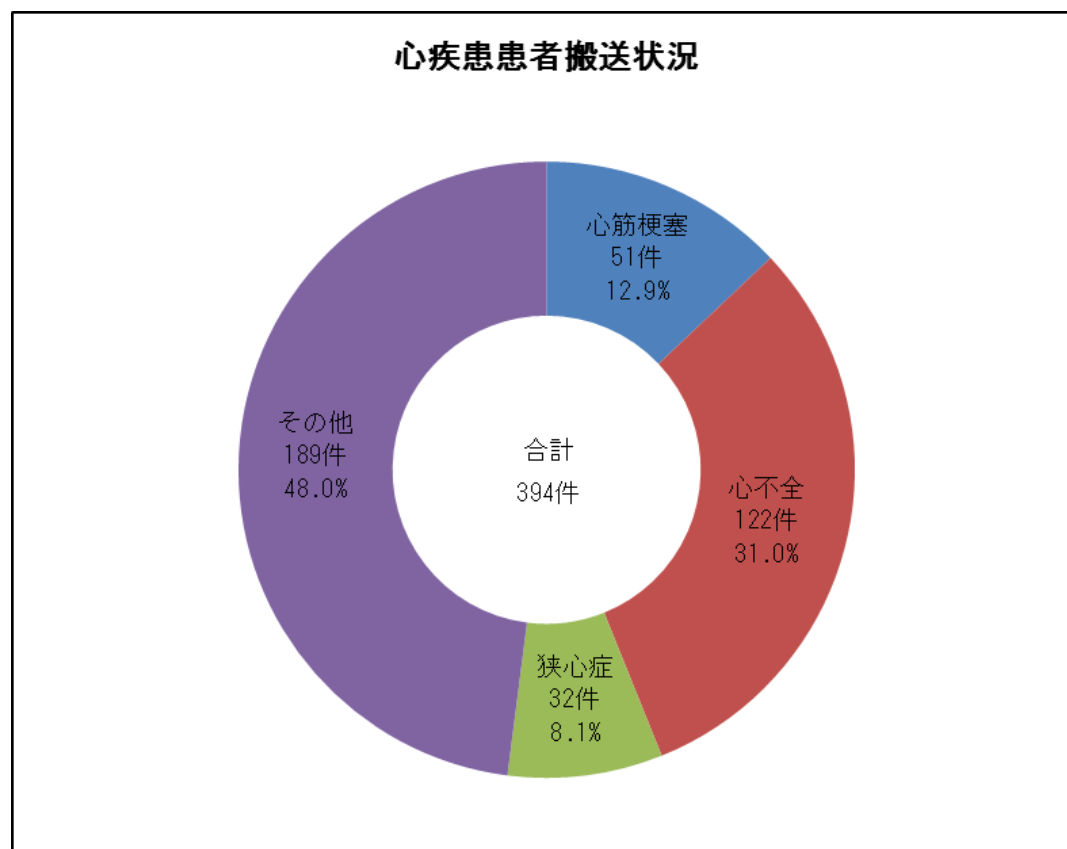
脳疾患患者の搬送状況として 336 件中、脳卒中が 266 件で 79.1%を占めた（図 16-3）。

図 16-3



心疾患患者の搬送状況として心不全、心筋梗塞、狭心症の順に多く、52.0%を占める（図 16-4）。

図 16-4



17、ドクターカー出動状況

平成 25 年 5 月よりドクターカーの運行が開始され、北見赤十字病院の保有する周産期救急ドクターカーを北見地区消防組合が協定により運行している。

病院前周産期救急診療及び重度傷病者に対する救急診療等が対象となり、医師・看護師及び救急救命士が乗車し早期に診療を開始することで救命率向上を図ることを目的としている。

平成 28 年中の運行状況は 13 件の出動要請があり、内訳は転院搬送に係るものが半数以上を占め、交通が 2 件、労働災害が 2 件であった。